

科 目	単 位	担当年次	担 当 者
日本語学 II	4	3	ふりがな こが ひろき 古賀 弘毅

### 【講義概要】

外国人の日本語学習者は、担当の日本語教師から教わり学んだ文法に厳密に従って、かつ、それを大胆に一般化して、文を作り、意味を伝えようとする。教師は、文法的に正しくない文か、意図する意味を伝えていない学生の文を見たり聞いたりして驚き、教科書の説明か自分の説明かの混乱を許したり一般化できない文法記述に思い当たり反省し、改善する。短期間(たとえば4年間)での外国語の習得を目指す大人に効果的に教えるには、学習者が忠実に従えば、伝えたい意味に応じて文を生成できる文法が必要である。このコースでは、格(「が」「を」「に」「の」)句と基礎文型、後置詞、提題形態「は」、関係節、丁寧形態と時制と動詞の形態分類、“受動”形態、使役形態、形容詞と「である」(繫辞)、「ている」、尊敬形を含む文を生成できるような文法を学ぶ。受講生は、外国人学習者の躓きを未然に防ぎ、彼らの質問に答えられるよう、日本語文法を学び、考える訓練を受ける。

### 【到達目標】

日本語教育に使える文法を厳密に表した日本語文法を学び、その記述によりどのような語列が文と予測されるかを計算できる。

### 【受講に際しての注意事項】

- このコースは日本語教員養成課程の必修科目であり、コースの単位は、卒業単位に数えられない。
- 「日本語学概論」をすでに履修済みであるか、または、同時に履修していることが求められる。

### 【評価方法】

1) レッスンテスト(4～6回)(75%：より後ろのレッスンテストの方が重み付けが大きい)と、2)教科書『日本語文法整理読本』からの小テスト(10～15回)(15%)と、3)クラス参加(10%)とで評価する。

### 【使用テキスト(著者・書名・出版社)】

- 井口&井口著、監修：名柄『日本語文法整理読本』、パベル・プレス(要購入)と、
- プリント(授業で配布する)

### 【授業計画】

- 1学期
- 1) 科学理論としての日本語文法(文法教授における理論、予測、現象)
  - 2) 上級読み教材の文の分析、
  - 3) 格句と基礎文型：「こどもが寝る」、「こどもがおはぎを作る」、「床にこどもが寝る」、
  - 4) 後置詞句：「台所でこどもがおはぎを作る」
  - 5) 提題：「こどもは寝る」、「おはぎはこどもが作る」
  - 6) 関係節：「寝る子供が走る」、「そこにこどもが本を読む部屋がある」
- 2学期
- 7) 丁寧体と時制と動詞の形態分類：「こどもが寝ます」、「こどもが本を読んだ」、
  - 8) “受動”形態：「お母さんがこどもに寝られる」、「おはぎが作られる」
  - 9) 使役形態：「お母さんがこどもに寝させる」、「こどもがお母さんに寝させられる」、
  - 10) 形容詞と繫辞：「おはぎが昼ご飯である」、「こどもが静かである」、「おはぎがおいしい」、「こどもはおはぎが好きである」
  - 11) 「である」：「おはぎが作ってある」
  - 12) 「ている」(現在進行・現在完了)：「こどもが寝ている」、「こどもが結婚している」
  - 13) 尊敬形：「先生がおはぎをお作りになる」